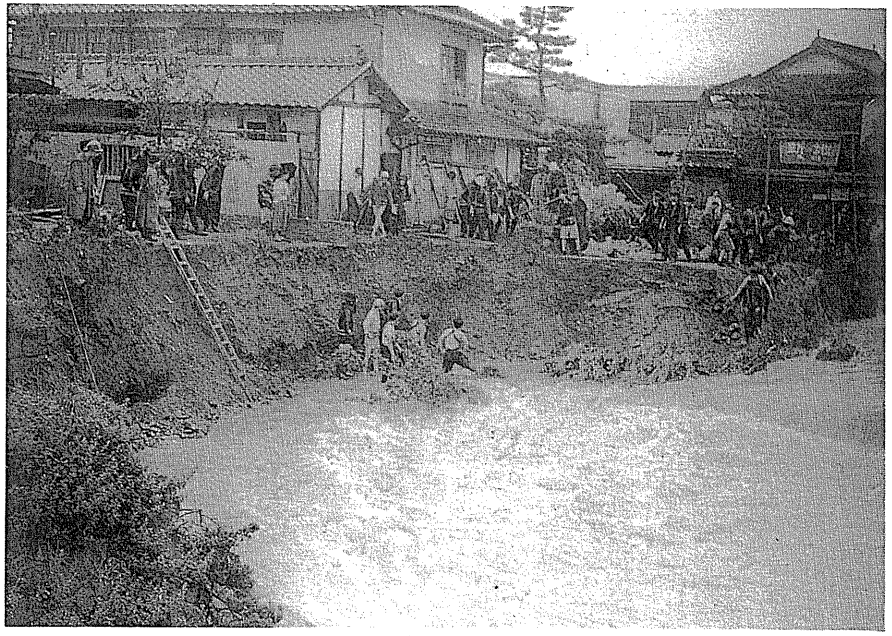
災害の記録



災害は語る

往昔における金毘羅の災害の歴史は、現在の史料を見る限り、貞享三年（一六八六）七月二十六日、大雨・洪水による鞘橋流失の災害から始まっている（『金毘羅庶民信仰資料集』年表編）。地震・暴風雨・洪水・旱魃などの天災は、予知しがたいもので、それゆえに被害の爪あとを大きく残してきた。

ここでは、明治二十三年（一八九〇）二月十五日より、平成二年（一九九〇）までの、町政施行百年間の主な災害の一部を抜き出してみた（『置県百年』『役場文書』その他）。

明治二十六年（一八九三）六月二十三日～八月十五日まで五十四日間、降雨なしの大旱魃。

明治三十九年（一九〇六）一月、琴平地方に大雨、床下浸水約六〇戸。

明治四十年（一九〇七）二月十日、十一日の両日大雪。琴平町六七センチの積雪。

大正元年（一九一二）九月二十二日、暴風雨による金倉川洪水。栄橋等落ちる（後掲）。

大正五年（一九一六）八月一日、大雨で金倉川増水・氾濫、消防手殉職（後掲）。

大正七年（一九一八）九月十三日～十四日、大暴風雨で金倉川架橋の五橋流失。

昭和九年（一九三四）九月二十日～二十二日、室戸台風来襲。この年大旱魃、市町村一斉に雨乞い祈願。

昭和十四年（一九三九）大旱魃、知事が市町村に雨乞いを指示。

昭和二十一年（一九四六）十二月二十一日、南海地震で大惨事。

昭和二十七年（一九五二）六月二十二日～二十三日、ダイナ台風来襲。正渕井堰と大宮荒井井堰決壊（後掲）。

昭和二十七年七月二日の大雨による、大宮荒井井堰と東川岸の崩壊（後掲）。

昭和四十三年（一九六八）二月十六日、台風並みの強烈な低気圧のため、豪雪となり町内アーケード倒壊。

昭和五十一年（一九七六）九月十三日、台風十七号で大荒れ被害大。

昭和五十八年（一九八三）九月二十八日、台風十号で買田川増水（後掲）。

大正五年（一九一六）八月一日、大雨洪水で金倉川が氾濫し、琴平町五条雄装軒橋付近（当時満濃町五条）の堤防が崩壊した。善通寺警察署琴平分署の招集に応じて出役、玄孝橋付近で水防に従事中の、琴平消防組第一部消防手増谷竹次郎（二十八歳）が、溺死・殉職するという悲惨な事故があった。

昭和十二年（一九三七）十一月三日、琴平町消防組組頭大利政彦（当時琴平町長）ほか組員一同が、琴平町小松町の松尾寺境内に、殉職消防組員慰霊碑を建立した。その碑には、大正五年八月一日殉職の消防手増谷竹二（竹次郎）の名が刻まれ、また、昭和九年（一九三四）十二月三日として組頭福田秀太（元町長）の名が刻まれている。

◀殉職消防組員慰霊碑（松尾寺）